

## PLuS+2009 来場者アンケート分析結果

調査は、2009年10月11日、PLuS+2009 展示パビリオン「+-=○」内にて実施。分析はぶんぶん（equal partner project）が担当した。

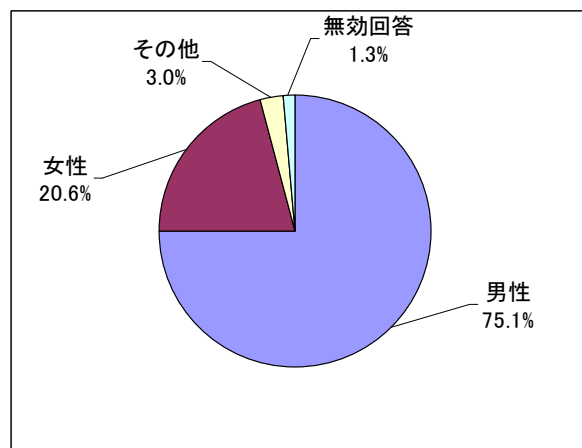
回収数は、398 通で、PLuS+全体の来場者（約 5,406 名）の7%程度の来場であったと考えられる。例年と比べ会場での回収状況に差は見られなかったため、昨年（525 通、9%）と比べて減っている要因は、メイン会場との間に一般者通路を挟むなどイベント全体の配置に影響されて、来場者の減少があったのではないかと推察される。

### ① 対象者属性

ゲイコミュニティのイベントである為、男性の比率、同性愛の比率が高くなっている。男性で、且つ同性愛、両性愛と回答した人数は全体の、62.6%となっている。平均年齢は32.0歳となっている。

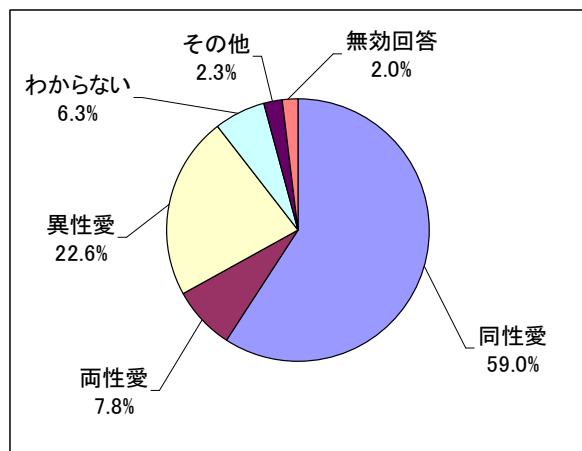
#### (1)性別

	2008年	2009年
男性	76.4 %	75.1 %
女性	21.5 %	20.6 %
その他	1.7 %	3.0 %
無効回答	0.4 %	1.3 %



#### (2)性的指向

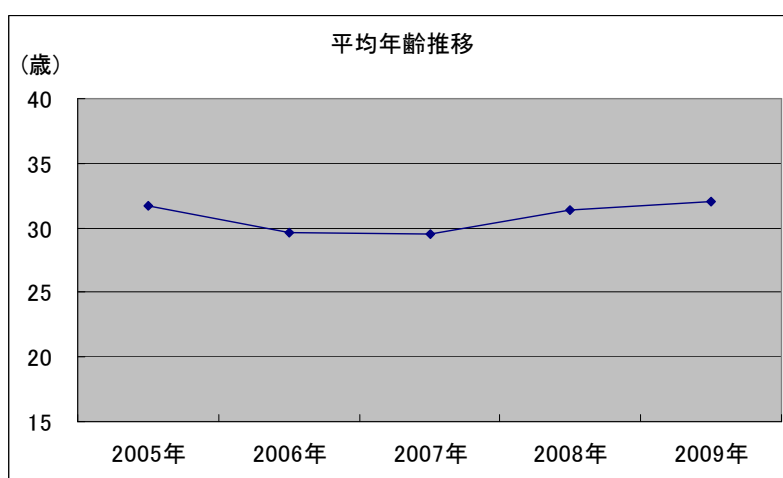
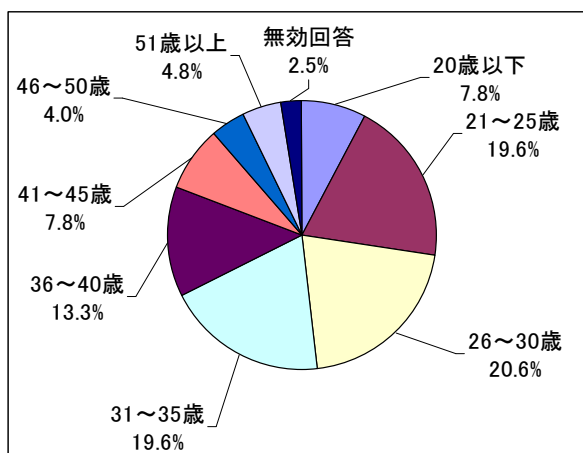
	2008年	2009年
同性愛	60.0 %	59.0 %
両性愛	9.7 %	7.8 %
異性愛	20.6 %	22.6 %
わからない	5.5 %	6.3 %
その他	1.5 %	2.3 %
無効回答	2.7 %	2.0 %



(3)年齢

20歳以下	7.8 %
21～25歳	19.6 %
26～30歳	20.6 %
31～35歳	19.6 %
36～40歳	13.3 %
41～45歳	7.8 %
46～50歳	4.0 %
51歳以上	4.8 %
無効回答	2.5 %

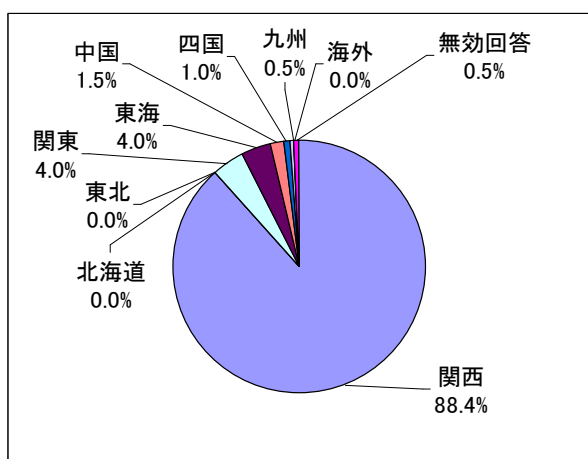
平均年齢	32.0 歳
------	--------



(4)居住地

関西	88.4 %
北海道	0.0 %
東北	0.0 %
関東	4.0 %
東海	4.0 %
中国	1.5 %
四国	1.0 %
九州	0.5 %
海外	0.0 %
無効回答	0.5 %

大阪	67.6 %
兵庫	14.8 %
京都	10.2 %
奈良	2.3 %
滋賀	2.6 %
和歌山	0.9 %
無効回答	1.7 %



② 周囲の陽性者の有無

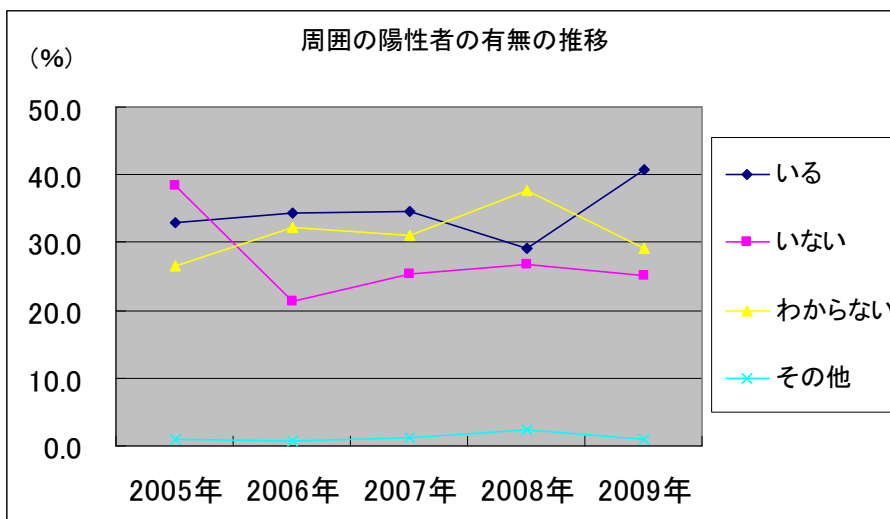
概ね 3 割強で推移してきたが、今年度は 4 割が周囲に陽性者がいると回答している。また、この回答に含んでいる回答者自身が陽性者であるという数も昨年の 5 倍以上となっている。これは陽性であることを周囲に伝えている陽性者が増えたためではないかと考えられ、プロジェクトの活動における成果とも考えることができる。

(単位:%)

	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年
いる	33.0	34.3	34.5	29.1	40.7
いない	38.3	21.3	25.3	26.7	25.1
わからない	26.6	32.3	31.0	37.7	29.1
その他	1.0	0.7	1.1	2.5	1.0
無効回答	1.1	11.4	8.0	4.0	4.0

※ 2007 年以降では「その他」に「答えたくない」を含む。

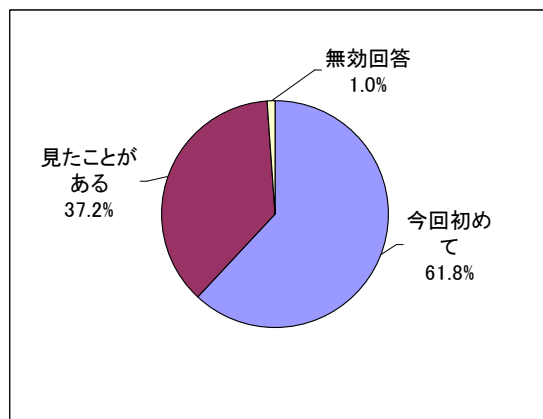
※ 2008 年、2009 年では「いる」に「陽性者である」を含む。



③ 過去に展示を見たか

PLuS+での展示も 5 回目となり、過去に展示を見たことがあるとの回答が 12.2% 増加、会場については 6 割以上が PLuS+ であり、その他展示会場 (dista、chot CAST なんば) での展示の認知度がまだ低いようである。

	2008年	2009年
今回初めて	73.1 %	61.8 %
見たことがある	25.5 %	37.2 %
無効回答	1.3 %	1.0 %



④ 展示に関する評価

展示の評価に関しては、8割以上の来場者から良い評価を得ている。しかし、昨年に比べると全ての項目で「とても良かった」が10ポイント程度評価が悪くなっている。これは昨年までの手紙をベースとした展示から、アンケートをベースにしたものに内容が変わった為、否定的な内容を含めた多方面のメッセージが寄せられた結果であると思われる。

(1) 企画全体として

	2007年	2008年	2009年
とても良かった	42.9 %	47.2 %	39.2 %
良かった	34.1 %	39.4 %	44.5 %
普通	12.3 %	8.4 %	11.6 %
あまり良くなかった	0.4 %	1.0 %	0.3 %
良くなかった	0.0 %	0.6 %	0.3 %
無効回答	10.3 %	3.4 %	4.3 %

(2) パネルの写真について

	2007年	2008年	2009年
とても良かった	30.7 %	37.7 %	28.9 %
良かった	45.6 %	40.4 %	36.2 %
普通	17.2 %	15.2 %	27.4 %
あまり良くなかった	1.1 %	2.9 %	3.5 %
良くなかった	0.0 %	0.6 %	0.3 %
無効回答	5.4 %	3.2 %	3.8 %

(3) パネルの言葉について

	2007年	2008年	2009年
とても良かった	36.8 %	49.1 %	38.9 %
良かった	39.8 %	37.7 %	42.2 %
普通	12.6 %	8.4 %	13.8 %
あまり良くなかった	0.4 %	0.6 %	1.0 %
良くなかった	0.0 %	0.8 %	0.3 %
無効回答	10.3 %	3.4 %	3.8 %

(4) 手紙について

	2007年	2008年	2009年
とても良かった	18.0 %	51.6 %	41.2 %
良かった	29.1 %	32.6 %	35.7 %
普通	13.4 %	9.3 %	13.8 %
あまり良くなかった	0.4 %	0.0 %	1.0 %
良くなかった	0.0 %	1.0 %	0.0 %
無効回答	39.1 %	5.5 %	8.3 %

※ 2007年は手紙閲覧場所がアンケート回収後であった為、無効回答が多かった。

(5) スライドショーについて

	2009年
とても良かった	22.6 %
良かった	28.6 %
普通	17.1 %
あまり良くなかった	1.3 %
良くなかった	0.0 %
無効回答	30.4 %

※ この設問は今年度から。会場では、時間的理由からかスライドショーを見ない来場者も多く見られた。

⑤ 2009年アンケート自由記述

- 僕は自分が性同一性障害（GID）だからおもうのかもしれないけど、たとえば GID が一つの病気だとして（そうじゃないという主張の人もいるので）治らない、カミングアウトの問題等々 HIV ポジとかぶる部分が多くあって展示も手紙も胸の奥に突き刺さるものがたくさんありました。友人に言う？家族に言う？病院に通ってる？直す？ホルモン受ける？手術する？しなくても生きていける？社会の受け止め方は・・・？どっしりとのかかる HIV の数々の困難な問題はセクマイというくくりと医療という領域を行き来する GID ととてもよく似ていると思います。それでもなんとか生きていく道を模索してみんな悩む。自分のこともみんなのことも大好きだからよけいに悩む。本当は恋愛もSEXも自由なはずなのにね。何かするのに「ごめんなさい」がつきまとうのは、正直しんどいな。ま、そんな感じ。だからカウンセラーという道をえらびました。（自分の職業ね。）病気とかセクマイとかそんなの関係なく誰かが苦しんでいるのを見てられないだけだよ。
- お疲れ様です。Thank you.
- とてもいい勉強をさせていただきました。僕もゲイの友達やグループの仲間に入りたいけど出会いが少ないのが残念。社会人しながら通信教育大学法学部在学しています。今日はありがとうございました。遊びに来て良かったです。
- パネルに書かせてもらいました。
- 友人から「HIVだとカミングアウトされたら」そのことを受け止めてこれからも友人でいられると思う。だけど、自分がHIVだとわかったら・・・正直、今のまま友人と接していけるかわからない。
- 毎回考えさせられる。同感することがある。いつも予防運動ありがとう。これからもHIVに気をつけてお互いに楽しく暮らそう。
- ありがとうございます。スライド、陽性である事を黙ってSEXしたところと罪悪感、そしてその後の告白、この部分がとても重要というか気になった。
- ポジティブの友人が居ると自分にもその可能性がある事、一つの覚悟としてずっと持っていますし、もう自分にとっては大したものではありません。
- 私が HIV 検査を受けた 20 年前と比べ今は本当に若い人たちにとって検査が身近な状況で受けられる様になって、スゴイと思う反面、世の中の偏見や思い込みはどんどん増えてるんとかうん？と思ったりする事も正直あったりします。でも病気になるって事を、やっぱりポジティブに考えられない風潮があるので、ん～！と思う書き込みもありました。でも発信するのは大切なことなのでこれからも色んなところでやってください。
- 手紙のパネル、うるっときました。

- 書き込み式の展示パネルを初めてみました。そしていくつかコメントもさせていただきました。例えばアンケートか何かで自分のコメントや意見が公に掲示となると、少し恥ずかしかったりするけれど、展示物にコメントするとなると意外とスラスラ書き込めて、自分でも驚いています。どちらかといえば匿名性がそんなに確保されているわけでないから、逆説的な意見になってしまっているかもしれません。ただ、おそらくは他の人が書き込まれたコメントに何か引き寄せられる感覚に陥って、そして飾らない気持ちで気転に書き込めてとても楽しかったです。私はそんなに HIV/AIDS に知識の有る人間では正直ありません。そんな立場に居る私のような者にはとても興味深いブースだったのではと思います。今日はとても天気良くて、日陰でイス、というのも good ワラ。ありがとうございました！！
- HIV は感染経路による差別があるように感じられる。ポジティブの当事者の中にも。病気（ウイルス）は人を選ばないし、差別もしない、人も人を差別しなくなればいいなあ。
- 色々な場でこのようなイベントをしてほしい。
- 普段生活していると触れることの出来ない思いに出会えたことを深く感謝します。また、来年も催してください。私は看護師なのですが、少しでも理解を深めたいです。
- 「HIV-AIDS」と一言でいっても、恋愛、友達、家族、仕事…いろいろと自分を取り巻く環境にかかわってくるものだと思っています。「感染する、しない」も大切かもしれませんが、今は「HIV-AIDS」を知り、自分はどうしたいのかを考えることが大切のように思います。
- エイズになりたくないなあと思いました。そのために、普段はセーファーセックスを心がけ、また正しい知識を持つと思いました。
- エイズは怖い。しかし、それ以上にエイズ（感染・患者）に対する差別・偏見の方がよっぽど怖い！
- 本当の生の声の手紙集につまみついて、じーンとしてしまいました。正直に自分がもし感染したらと考えると怖いですが、話し相手くらいにはなれるようにしたいです。
- 本人がそうですし、医者と相談して薬、治療 etc 1 ヶ月に 1 回病院に行っています。又、他の人で薬がなかなか合わない等もあります。
- サンキュー！
- 昔、やったことがある人から「+」になったと言われたときは、正直、相手のことより自分のことを心配してしまいました。ずっとセーファーでしかしたことがないので、自分は「-」でした。情報は入っていたけど、実は身近なことだと初めて感じました。

- 人ごとのようで、人ごとでないのは分かっている、でも、考えるとブルーになるから、目をそむけがちなコトと向き合わされる気がして、きっといいことなのだと思いますながら、やっぱりちょっとしんどかったりして。
- 例年よりも迷路にする事によって、よりゆっくり見ること、考える事ができてよかったです。
- 見ながらいろいろ考えてしまって、書き込むのが難しかったです。他の人の意見は様々で、いろいろな見方があるのだなと思いました。
- 周りに陽性の人がない（と思われる）ので、手紙のリアルな心情が個人的にひびきました。
- HIV・AIDS だからと言って、あきらめず。改めて自分自身を大事に見つめなおし、友達や恋人を大切にしていってほしいです。
- 写真は「それっぽいスナップ写真」ぼすぎて、もう少し印象に残るような、こだわりの“作品”にしてもらいたいなと思いました。写真展ではないということはよくわかりますが、言葉がいいぶん、写真もそれに追いつくモノだと良いなと思いました。すてきな企画、用意、準備作業いろいろ、ありがとうございました。
- 今までの展示で一番いいと思いました。
- おつかれ様です。がんばって下さい！！
- パネルによ一書けませんでした…。パネルの言葉に対する、反応(←書き込み)。優しさにあふれていました。現実的に陽性の人が見れるとどうなるのか…？少し怖くなってしまいました…。慢性的な病気と考えたいですが…。社会を取り巻く環境は、まだ「免疫機能障害」という障害が理解されていないのだな、と実感です。一地方の話です…。
- 今まで身近に感じてなかったんだけど、こないだ友達の彼氏さんが陽性だった、って聞いてなんかビックリした。この先、2人はどうするんだろ？って不安。メンタル面だけでは支えきれない時だってあるのに。
- 悩んでる人がたくさんいるんやなって思った。相方が HIV に感染しとるからこれから色々大変やろおけど、一緒にがんばっていきます。
- どうなんでしょう。他人事のように思っても、実はとっても身近な問題なんでしょうね。でも正直まだ実感として身近にそういった例がなく、良く分からないのが現状では。
- 書き込みパネルの裏に板などがあれば、もっと書きやすいです。ありがとうございました。
- 悪い事？何が？世の中には、もっと悪い事をして居る人たちが居ると思う。
- 人として生きて行けたら良いと思う☆
- 文字と写真のバランスがとても良かったです。スタッフの方の熱気が伝わってきて嬉しかったです！

- 母親に自分がバイだとつげた時に、はじめに言われたのが「あんたエイズになったん？」でした。そこから私が言葉を発するひまもなく、「どうやったらなおるの?」「どうやったら普通にもどるの?」とやつぎばやに質問されました。「治療」という言葉をこの時ほどつらい言葉に感じた事はないです。私は今のところマイナスで、でもいつかはプラスになるかもしれなくて。もしプラスになったら私は治療されるべきバイキンなのではないでしょうか。プラスになってしまうことは受け入れられるかもしれない。でも、人間からバイキンになるのはつらいです。
- 色んなコメントや言葉を見て、自分が HIV になったときに、どう感じるかと重ね合わせてみてはみたものの、想像ができなかった。きっと、いつも不安をもちながら生きていくのだらうなとおもってしまった。周りの目もどこか怖くなるのだろうか。ただ僕は、信じられて信じれるような人間関係を普段も作っていたいと思った。一緒にいて安心できるような人がほしいし、安心させるような人間に僕はなりたい。
- いろんな人のパネルのメッセ、共感できるとうなづく言葉ばかりでした。今のところ、私は一なんで“もし”っと考えることもあるので、こんな展示はすごく自分のためになると思います。ありがとうございます！！
- HIV がほんとに治る病気になってほしいです。それが今、素直に思う事です。

以上